

第54回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	宮川ゼミ	チーム名	スパイシー
タイトル	Inperfect:不完全であることの魅力		
テーマ群	a) 理論・情報 g) その他		
メンバー	堀ななみ、小林美那、浅香瀬菜、近藤秀治、杉田風太、中家孝輔		
研究計画内容	<p>【研究背景】 「わびさび」という言葉をご存じだろうか。「わびさび」とは、日本独自の美意識であり、不完全であることを良しとする考え方である。例えば、古着は新しい服に比べて年季が入っているため、一見不完全であるように見える。しかし、近年では古着ブームが広がり、多くの人に愛されているモノになっている。私たちはまた、人間の「短所」(欠点や劣っている部分)も、不完全さを表していると考えた。しかし、短所があるからこそ、相手に親近感や安心感を与えられるのではないだろうか。このように、不完全なものでも魅力的に感じられることがある。そこで、「不完全さが愛される要因」と「どのような場合に完全なものに勝るのか」という疑問に基づき、本研究を進めた。</p> <p>【研究内容】 私たちは「モノの不完全」と「ヒトの不完全」という二つの観点から、不完全が愛される要因を親近感、独自性、ストーリー性と仮定した。大学生を対象にアンケート調査を実施、またランダム化比較実験を行うことによって、3つのうち、どの要因が一番「不完全」が好まれる要因になり得るのか調査した。アンケートでは、古いモノ、独自性のあるモノ、親近感を与えるモノ、ヒトの短所についての好感度、支払い意思額についての質問を作成した。また、不完全への評価が自己肯定感や回答者の不完全さ、つまり短所によって影響されるのではないかと考え、それらを説明変数にし、不完全への評価値を被説明変数とすることで回帰分析を行った。</p> <p>【期待される効果】 この研究は、我々からのモノや人の本質的な価値や美しさを見つめなおす機会の提供である。昨今、多くの若者が SNS 等を通じて、自らの不完全な部分を他人と比べては低く評価し、社会に対しての不満を口にしていくように思う。そして、自らの短所ばかりを見て、自身の本来の魅力を把握できずにいるように思う。購買行動や人間関係における独自性やストーリー性の重要性をこの研究を通じて指摘したいと考えている。最初にも述べた日本独自の「わびさび」の精神に受け継がれている美德を発見する研究にしたいと私たちは考えている。さらに、「不完全」がもたらす新しい購買行動を用いた企業の販売戦略についても提案を行いたい。</p> <p>【参考文献】 ・ダン・アリエリー『不合理だからすべてがうまくいく：行動経済学で「人をうごかす」』早川書房(2010年) ・梶原直樹・梶原和子「否定的な特性が対人魅力に及ぼす影響について」『日本教育心理学会第65回総会発表論文集』(2023年) ・古谷奈菜・田村高志・増田光一郎・田中咲・水師裕「若者のレトロ商品における利用動機に関する研究 ―使い捨てフィルムカメラを対象としたノスタルジアと新奇性からの検討―」『プロモーション・マーケティング研究』(2024年)</p>		